

群 教 セ	G09 - 01
	平21.241集

コミュニケーションへの意欲を はぐくむ英語活動

— 一人一人の思いを生かす自己決定の場を取り入れて —

長期研修員 箱田 陽子

《研究の概要》

本研究では、英語活動において、児童が思いを膨らませながら交流活動に挑戦できる授業づくりをしたいと考えた。そこで、基本的な英語に慣れ親しむ中に、一人一人の思いを生かす自己決定の場を取り入れた単元を構想した。これにより児童は、交流活動に向けて見通しをもって活動し、挑戦する気持ちをもって交流活動に取り組み、楽しさや達成感を味わうことで、コミュニケーションへの意欲をはぐくむことができると考え、実践した。

キーワード 【英語活動 自己決定 コミュニケーション 児童の思い 交流活動】

I 主題設定の理由

全小学校に外国語活動が導入され、平成23年度から、5・6年生で年間35時間完全実施される。新学習指導要領では、外国語活動の目標にある「コミュニケーション能力の素地の育成」は、次の三つの柱を通じ、これらを踏まえた活動を統合的に体験することで養われるものであるとしている。

- ① 外国語を通じて、言語や文化について体験的に理解を深める。
- ② 外国語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図る。
- ③ 外国語を通じて、英語の音声や基本的な表現に慣れ親しませる。

②の積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度とは、自分の思いを一生懸命に伝えようしたり、相手の話を聞いて理解しようしたりするコミュニケーションへの意欲であると考えられる。このような態度を、外国語を通じて、言語や文化、そして他者への様々な気付きを促しながら育成することは、自己を確立し、相手を理解しようとする、これからの国際社会をたくましく豊かに生きる力をもった人間の育成につながると考える。

協力校では、今までも、児童が英語を用いて楽しく活動できるように、学級担任が児童の実態を踏まえて題材を選び、教材等を工夫して英語活動を実践してきている。英語活動に関するアンケートから、高学年の児童は、英語活動のよさを、「ゲームなどがおもしろい」というよりも、「友達と交流できる」「楽しく英語が覚えられる」「友達のことが分かる」ことであると感じていることや、言語や文化への興味・関心が高いことが分かっ

た。しかし、取組の様子では個人差が広がり、進んで交流しようとする児童がいる一方で、交流したい気持ちはもっていても、人とかかわることや、英語でのやりとりに対し、失敗するのではないかという不安や、恥ずかしさを感じ、進んで交流できない児童の姿が見られた。

これらの実態から、英語活動においてコミュニケーションへの意欲をはぐくむためには、児童が思いを膨らませながら交流に挑戦できる授業づくりが必要であると考えた。そのためには、音声や基本的な表現を基盤に、英語に楽しく慣れ親しめるようにすること、やらされているのではなく、自分の伝えたい思いを明確にもてるようにしていくこと、さらに機械的なやりとりではなく、目的意識をもって意味のある交流活動を行えるようにすることが重要であると考えた。

そこで、本研究では、基本的な英語に慣れ親しみながら、一人一人の思いを生かす自己決定の場を取り入れることで、交流活動への見通しをもち、さらに、挑戦する気持ちをもって、交流活動の楽しさや達成感を味わえるようにする英語活動の単元を構想することを考えた。そのことによって、コミュニケーションへの意欲をはぐくむことができると考え、本主題を設定した。

II 研究のねらい

英語活動において基本的な英語に慣れ親しみながら、一人一人の思いを生かす自己決定の場を取り入れた単元を構想していくことで、コミュニケーションへの意欲をはぐくむことができることを、実践を通して明らかにする。

Ⅲ 研究の見通し

- 1 「つかむ」過程で、基本的な英語に慣れ親しみながら題材にかかわる情報を取り入れ、伝えたいことを選択することで、児童一人一人が、交流活動への見通しをもつであろう。
- 2 「ふくらませる」過程で、基本的な英語に慣れ親しみながら、伝えたい具体的な内容や方法、交流の仕方を選択することで、児童一人一人が、交流活動に挑戦する気持ちをもつであろう。
- 3 「広げる」過程で、基本的な英語を基に、自ら選択しながら思いを伝え合い、交流活動から学んだことを振り返ることで、交流活動の楽しさや達成感を味わい、コミュニケーションへの意欲をはぐくめるであろう。

Ⅳ 研究の内容

1 コミュニケーションへの意欲をもった児童とは

「コミュニケーション」とは、情報や知識のやりとりだけではなく、話し手と聞き手双方向の意思や感情のやりとりである。このことから、英語活動におけるコミュニケーションへの意欲をもった児童とは、簡単な英語を用いて、伝えたい自分の思いを伝えようとしたり、友達の話聞いて理解しようとしたりして、積極的に楽しく交流し合える児童であると考えられる。

2 一人一人の思いを生かす自己決定の場について

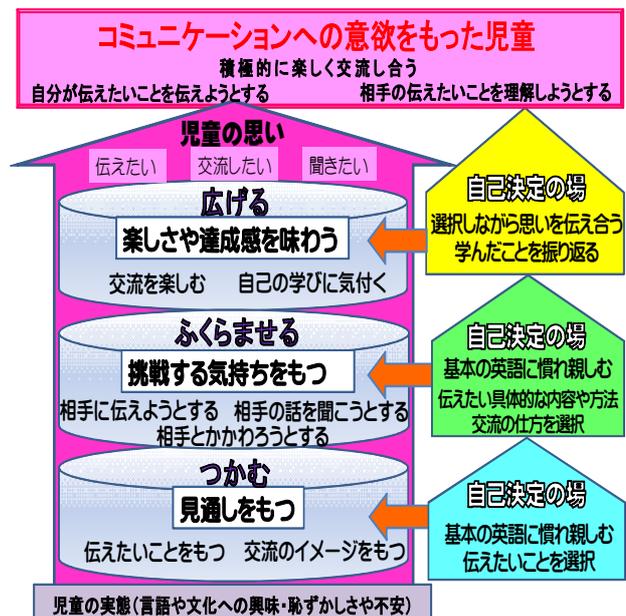
英語を使った交流活動では、簡単な英語や、表情、ジェスチャーなども使って、相手に伝えたり、受け取ったりして、「相手に伝わった」「相手の伝えたいことが分かった」という小さな達成感や楽しさを味わえる活動を工夫していくことが大切である。そして、その活動に、一人一人の児童の伝えたい思い、交流したい思い、聞きたい思いを生かす自己決定の場を取り入れ、その思いを膨らませながら交流活動に挑戦できる単元を構想し、実践していくことが必要であると考えられる。

まず、基本的な英語に慣れ親しんだり、言語や文化への気付きを促したりする活動をしながら、伝えたいことを考えたり、交流活動をイメージしたりしていく。そこで、他教科等と関連を図りながら、題材についての興味・関心を引き出しなが

らマップなどに書き表し、さらに、考えを広げたり深めたりしたことを書き加え、その中から伝えたいことを選択できるようにする。また、やりとりを豊かにする言葉に親しみながら、交流活動をイメージしていく。このような児童の思いを生かす自己決定の場を取り入れることで、伝えたい思いを膨らませながら交流活動に向けて、見通しをもつことができると考える。

次に、基本的な英語に慣れ親しませたり、言語や文化への気付きを促したりする活動をしながら、伝えたい具体的な内容をカードに書いたり、絵に表したりしていく。このことで、自分が伝えたい具体的な内容や方法を吟味し、明確にする。さらに、相手の聞きたいことを想定したり、相手に言ってあげたいことを考えたりしながら、自分がやってみたい交流の仕方を選択していく。このような児童の思いを生かす自己決定の場を取り入れることで、相手に伝えたい、相手の話を理解したい、相手とかかわりたい、という思いを膨らませながら、進んで交流活動に挑戦しようとする気持ちをもつことができると考える。

最後に基本的な英語を基に、伝えたい思いを、やりたい交流の仕方でも、自ら選択しながら伝え合う交流活動に取り組む。そして、自分のよかったことや、友達のよかったこと、題材についての学びを振り返り、自分が交流活動から学んだことは何かを、明確にしていく。このような、思いを生かす自己決定の場を取り入れることで、交流活動の楽しさや達成感を味わい、コミュニケーションへの意欲をはぐくむことができると考える。



V 研究の計画と方法

1 実践計画

対 象	小学校第6学年
単 元 名	「将来の夢を語り合おう」
実施期間	9月29日～11月4日
授 業 者	長期研修員 箱田 陽子 ALT

2 抽出児童

A	将来の夢についてあまり考えてきていないが、大切なことではないかという思いをもつ。英語での交流に難しさを感じている。楽しく英語に慣れ親しみながら、自分が選択した将来の夢を伝え合う交流活動に取り組み、活動を振り返ることで、その楽しさや達成感を味わえるようにしたい。
B	交流活動で、相手の話にうなずいたり、相づちを返したい気持ちはあるが、言葉が思いつかないためにできていない。楽しく英語に慣れ親しむ活動の中で、相手に言ってあげたい言葉を選びながら、将来の夢を伝え合う交流活動に取り組み、活動を振り返ることで、その楽しさや達成感を味わえるようにしたい。

3 検証計画

検証項目	検証の観点	検証の方法
見通し1	基本的な英語に慣れ親しみながら、題材にかかわる情報を取り入れ、伝えたいことを選択することは、児童一人一人が、交流活動への見通しをもつことに有効であったか。	・活動の観察 ・振り返りカード ・「発見・こだわり・大好きマップ」 ・見通しの記述
見通し2	基本的な英語に慣れ親しみながら、伝えたい具体的な内容や方法、交流の仕方を選択することは、児童一人一人が、交流活動に挑戦する気持ちをもつことに有効であったか。	・活動の観察 ・振り返りカード ・「夢ファイル」の記述 ・めあての記述
見通し3	基本的な英語を基に、自ら選択しながら思いを伝え合い、交流活動から学んだことを振り返ることは、交流活動の楽しさや達成感を味わい、コミュニケーションへの意欲をはぐくむことに有効であったか。	・活動の観察 ・振り返りカード ・交流活動の感想の記述

4 単元の目標及び評価規準等

目標	将来の夢を伝え合う交流活動を通して、コミュニケーションを図る楽しさや達成感を味わう。			
言語材料	“What do you want to be?” “I want to be a ～.” “Why?” “Because～.” 職業の英語表現			
評価の観点	コミュニケーションへの関心・意欲・態度	進んで表現しようとする力	言語・文化への気付き	国際感覚
単元の評価規準	自分から進んで友達とかかわり、将来の夢を伝え合う交流活動を楽しんでいる。	簡単な英語を使って、伝えたいことを伝えようすることができる。	他国との言語・文化のつながりや違いに気付いている。	自分や友達の将来への思いを大切にしようとしている。

5 指導計画

○主に英語に楽しく慣れ親しむ活動

●主に交流活動に向けた自己決定の場

過程	時	学習活動	研究上の手だて
ねらい 交流活動への見通しをもつ			
つかむ	1	<ul style="list-style-type: none"> ○ デモンストレーションを見て、チャンツをする。 ○ 『職業ビンゴゲーム』をする。 ○ 『よ～く聞いて！集中力ゲーム』をする。 ● 『発見・大好き・こだわりカード』をして、『お仕事シート』を受け取る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 英語を使ってやりたい交流活動をイメージできるように、基本的な英語に楽しく慣れ親しむ活動を取り入れる ● 将来の夢を幅広く考え、選択していきながら、職業への興味を広げながら選択していく場を取り入れる
	2	<ul style="list-style-type: none"> ○ デモンストレーションを見て、チャンツをする。 ○ いろいろな職業の英語表現を知る。 ○ 『夢ランキング1位予想ゲーム』をする。 ○ 歌『Someday』を聴く。『魔法の言葉』のやりとりをする。 ● 『ある日の仕事人シート』を受け取り、マップに書き加える。 	

ねらい 交流活動に挑戦する気持ちをもつ	
<p>ふく く ら ま せ る</p>	<p>【学活1.5】 なりたい職業を選んで『将来の自分』を描き、『夢ファイル』や『夢カード』を作成することで、将来の夢の交流の仕方を明確にもてるようにしていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ デモンストレーションを見て、チャンツをする。 ○ 『魔法の言葉』をやりとりする。 ○ 『Guess what』ゲームをする。 ● 伝えたい将来の夢の具体的な内容や伝える方法を考えるグループ活動をする。 <hr/> <ul style="list-style-type: none"> ○ チャンツをする。 ○ 『魔法の言葉』をやりとりする。 ○ 『仲間Go!』ゲームをする。 ○ デモンストレーションを見る。 ● 将来の夢の交流の仕方を考えるグループ活動をする。
	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;"> <p>○ 英語を使って進んで交流活動に取り組めるように、基本の英語に楽しく慣れ親しむ活動を取り入れる</p> </div> <div style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;"> <p>● 交流の仕方を選択しているように、相手を意識しながら伝えたい具体的な内容や方法を選択していく場を取り入れる</p> </div> </div>
<p>児童に提示した『夢ファイル』作成シート</p>	
ねらい コミュニケーションの楽しさや達成感を味わう	
<p>広 げ る</p>	<p>5</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ チャンツをする。 ○ 『魔法の言葉』をやりとりする。 ○ 本時のめあてを交流する。 ○ デモンストレーションを見る。 ● 『夢ファイル』をもち、『メッセージ』や『夢カード』の交換をしながら、思いを伝え合う交流活動をする。 ● 交流活動を振り返る。
	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;"> <p>● 交流の楽しさを味わう</p> </div> <div style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;"> <p>● 交流の達成感を味わう</p> </div> </div>

VI 結果と考察

1 伝えたいことを選択していく「自己決定の場」の有効性について

(1) 英語に慣れ親しみながら、やってみたい交流活動をイメージする場

① 英語を使った交流の場面をイメージする場

コミュニケーションを図る時に大切なことや、交流の仕方に気付くことができるように、毎時間ALTと教師でデモンストレーションを行った。目と目を合わせ、ジェスチャーを交えて表情豊かなやりとりとなるようにし、デモンストレーションからの児童の気付きを、コミュニケーションの大切なポイント



図2 コミュニケーションのポイント

として取り入れ、毎時間活用した(図2)。

② 英語に楽しく慣れ親しむゲーム活動の場

第1時は、職業の英語表現を集中して聞き取る『集中カゲーム』に取り組んだ。児童が“What do you want to be?”とALTにたずね、“I want to be～.”とALTが答えるやりとりを繰り返す。児童は、ALTが言った職業を聞き取り、そのカードをペアで協力して選ぶ。さらに、楽しく取り組めるように、チャレンジできるA～Eのルールを設けたところ、すべてのペアが、その活動に取り組んだ(図3)。そして、93%の児童が、振り返りカードに「楽しかった」という感想を書いていた。



- チャレンジしよう!**
- A 順番通りに並べ替える
 - B やりとりを増やす
 - C 速さを変える
 - D カードを裏返す
(重ねる)
 - E 目を閉じて挑戦

図3 『よ～く聞いて!集中カゲーム』の様子

③ やりとりを豊かにする言葉に親しむ場

これからの交流活動が豊かになるよう、相手も自分もうれしくなる『魔法の言葉』として、相手を認め、励ます言葉（図4）を紹介し、ゲーム活動などで、毎時間使う場面を取り入れた。



図4 魔法の言葉 Magic words

(2) 好きなことや得意なことから情報を選択する場

第1時に、自分に合うことや興味のあることをチェックする『発見・こだわり・大好きカード』に取り組んだ（図5）。そして、チェックした項目に合わせて、働く人からのメッセージである『お仕事シート』を受け取れるようにした。

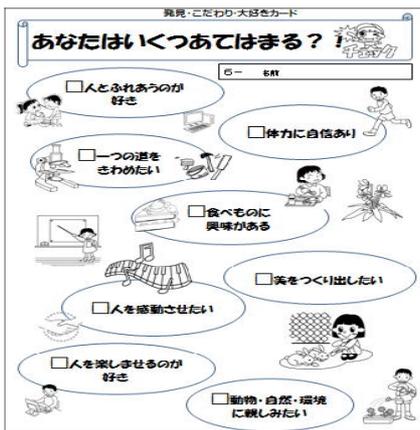


図5 発見・こだわり・大好きカード

振り返りカードには、「その仕事が好きことがわかった」「自分に合う職業がいっぱいあった」などの記述がみられた。

(3) 日本や世界の子どもの夢から情報を得る場

第2時の『夢ランキング1位予想ゲーム』は、職業への関心や相手意識を高められるよう、日本や韓国、フランスの子どものなりたい職業を、グループで交流しながら予想した（図6）。



図6 『夢ランキング1位予想ゲーム』の様子

実際のランキングを知る活動では、基本的な英語を繰り返し使って、ALTとやりとりした。

(4) マップに書き表し、選択していく場

第2時は、英語ノートから20種類の職業を紹介し、その職業の中から興味をもった職業の一日がわかる『ある日の仕事人シート』を児童が受け取れるようにした。さらに『発見・こだわり・大好きマップ』に書き加える活動をした。以下に抽出児童Aの感想を示す。

思ったよりもたくさんの職業が見つかって、将来のことについてより関心をもてました。好きなことからこんな職業につけるんだと発見がたくさんありました。職業がたくさんあって、書いていると中、これがいいかなと思うことがたくさんありました。また、世の中にはこんなにたくさんの職業があるのを知っておどろきました。

(5) 考察

抽出児童Aが、情報を取り入れて興味をもった職業などをマップに書き表し、将来の夢を選択していく様子を示した（図7）。



図7 抽出児童Aの『発見・大好き・こだわりマップ』から、将来の夢を選択するまでの様子

抽出児童Aは、事前に、好きなことからつなげて、パティシエも含めた23種類の職業をマップに表出していた。第1時では、「発見・こだわり・大好きカード」に取り組み、パティシエへの興味を高めたことが、振り返りカードから分かる。

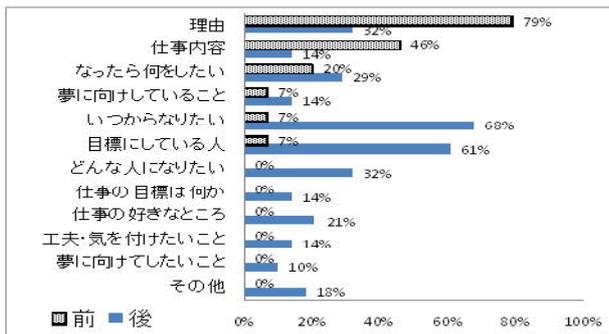
《第1時》発見・こだわり・大好きカードで私は4つあてはまりました。特にパティシエや和菓子職人に興味をもちました。私は、おかしをつくるのも食べるのも大好きなので、いいなと思いました。

第2時では、フランスの子どもたちがあこがれる機械関係の仕事に興味をもち、マップに「機械」「電気屋」を書き加えた。このように、抽出児童Aは興味のあることから22種類以上の職業に関する情報を取り入れ、14種類を選択してマップに書き加え、そこから「パティシエ」を選択した。多くの選択肢から、将来の夢と自分とのかかわりをじっくりと考え、選択していったと考える。そして、将来の夢に、「自分の好きなものに囲まれて活動できる」「お客さんとせつすることができる」「自分でものを作り出すことができる」という、自分なりの魅力をもつことができた。

このように職業に関する興味ある情報を取り入れてマップに書き表し、将来の夢を一つに選択をしていくことで、すべての児童が、将来の夢と自分とのかかわりを意識しながら、将来の夢をもつことができた。

次に、交流活動で「友達に聞きたいこと」を調査をしたところ、表1のようになった。

表1 友達に聞きたいこと



事前と事後を比べると、聞きたいことが6種類から15種類以上に増えたこと、そして、内容も具体的になったことが分かった。事前には「理由」や「仕事内容」に片寄っていた内容が、事後は、「目標にしている人」「仕事の好きなお店」「仕事の工夫・気をつけたいこと」「夢に向けてしたいこと」のように具体的になった。このことから、児童が自己決定をしながら、将来の夢を考える中で、仕事のよさ、やりがい、その職業に就いた自

分の姿などを、具体的に考えたことが分かる。そのことにより、友達に聞きたいことを、自分の夢とかかわらせながら具体的に、数多くもつことができたと考える。

また、抽出児童Aは、事前アンケートで将来の夢の交流に「不安」な気持ちをもっていた。その理由は、「英語で伝えるのが難しそう」であった。しかし、英語に慣れ親しみながら、交流場面をイメージしたり、やりとりを豊かにする言葉に親しんだりすることで、次のような交流活動に向けた見通しを具体的な視点で記述することができた。

抽出児童A **英語で伝えるのが難しそう**
魔法の言葉を使って、自分の夢を伝え合いたい。友達を夢を知りたい。いろいろな人と交流したい。

この見通しから、抽出児童Aがやってみたい交流活動のイメージをもっていることが分かる。

抽出児童Aのように、「人とかわるのが苦手」「英語で伝えるのが難しそう」「将来の夢を考えたことがない」などの「不安」をもっていた児童10人も、つかむ過程を通して図8のような見通しをもった。伝えたいことをもち、やりたい交流活動をイメージできていることがわかる。

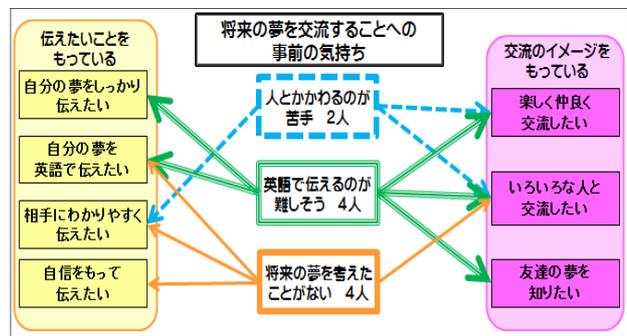


図8 不安をもつ児童の交流活動への見通し

このように、全員の児童が、伝えたい将来の夢、やりたい交流活動へのイメージをもったことから、交流活動への見通しをもつことができたと考えられる。以上のことから、つかむ過程での自己決定の場は、児童一人一人が、交流活動への見通しをもつことに有効であったと考える。

2 伝えたい具体的な内容や方法、交流の仕方を選択していく「自己決定の場」の有効性について

(1) 英語に慣れ親しみながら、交流で使いたい言葉を選択していく場

相手を認め、励ます『魔法の言葉』(図4)に毎時間親しむことで、児童は、相手の話を聞き、それに合わせて、言ってあげたい言葉を選んで言

うようになった。次のような感想が振り返りカードに書かれた。

- 魔法の言葉はお互いにうれしくなっているなと思いました。これからどんどん使っていきたいです。
- 魔法の言葉を言って、相手がうれしくなるように心がけたいです。
- 自分で魔法の言葉をいっぱい言えたので、友達がよろこんでくれました。とても満足です。
- みんなが魔法の言葉をいってくれてよかった。とくに、“You can do it.”と言ってくれたので、うれしくなりました。

(2) 伝えたい具体的な内容や伝え方を選択する場

第3時は、児童がこれまでに親しんできている“Why?” “Because ~” “I like ~.” “I want to ~.”などの「言いたい」「言えそう」な英語表現を取り入れて、伝えたい内容を明確にし、伝え方を考えるグループ活動を行った。児童は、『発見・交流・大好きシート』に、英語を使って伝えたい所は二重線、日本語で詳しく伝えたい思いは棒線を引いて、ALTやグループの友達と交流しながらやりとりの練習をした(図9)。

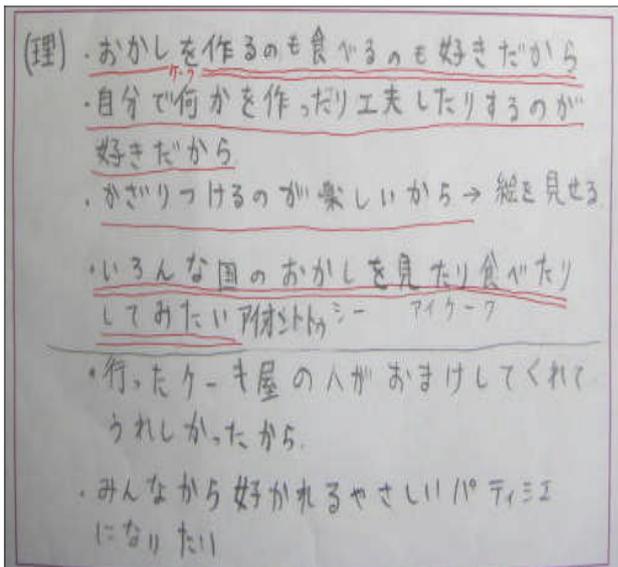


図9 抽出児童Aの発見・交流・大好きシート

抽出児童Aは、「パティシエになりたい」という将来の夢と、「おかしを作るのも食べるのも好き」「いろいろな国のおかしを見たり、食べたりしてみたい」という理由を、英語を使って交流してみたいと考えていた。そして、「自分で何かを作ったり、工夫したりするのが好きだから」「かざりつけるのが楽しいから」という思いを日本語を使って伝えようとしていた。

(3) 将来の夢の交流の仕方を選択する場

第4時では、相手を意識しながら、自分でやりたい交流の仕方を選ぶグループ活動を行った。

まず、ALTと教師のデモンストレーションで

A～オのやりとりを具体的に示し、自分のやりたい交流の仕方を選べるようにした(図10)。

- | | |
|----------------------|-----------|
| ア クイズを取り入れる | イ 実物を見せる |
| ウ “将来の自分”の絵の見せ方を工夫する | |
| エ 使いたい英語で伝える | オ 日本語で伝える |

図10 将来の夢を伝える方法を考えよう

次に、相手からの質問も想定しながら、交流の仕方を考え、グループで練習をした。「いつからなりたかなどの具体的なことをまずちゃんと伝えたい」「ここを言うときに絵を見せる」「相手に伝わるようにジェスチャーをつける」などを考えて、練習した。また、職業の英語表現が、相手に分かりにくいと思った児童は、クイズを取り入れ、ヒントを出しながら相手に伝えようとしていた。クイズを取り入れた児童が10人、実物を見せる計画の児童は2人であった。

(4) 考察

抽出児童Bは、毎時間の振り返りカードに、以下のような感想を書いている。

《第1時》ゲームでは、チャレンジができて楽しかった。「相手の目を見て話す」「ジェスチャーを入れる」「笑顔で」を改めて大切だなと思った。英語にリズムをつけることを初めて知ってびっくりした。

《第2時》みんなの夢をあてるのが楽しかった。フランス語と英語が少し似ていたのでびっくりした。たくさん職業が出てきて、「すごいな」「おもしろそうだな」と思った。

《第3時》自分で考えて当てるのが楽しかった。今日はたくさん「Cool」「Good」「Super」「Great」など、いろいろな魔法の言葉が使えた。言われてうれしかった。早くみんなの夢を聞いてみたい。

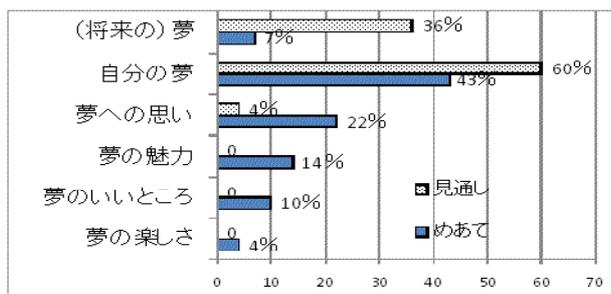
《第4時》来週、みんなに夢を言ったり聞いたりして伝え合うので、楽しくやりたい。しっかり魔法の言葉を使いたい。今までのことを生かして、伝え合いたい。

抽出児童Bは、楽しく英語に慣れ親しみ、コミュニケーションで大切にしたいことに気付いたり、ほめたり、励ましたりする言葉かけのよきにも気付いたりすることができたことが分かる。第4時の記述から、抽出児童Bは、見通しをもって活動してきており、それらを生かすことで、自分のやりたい交流活動ができそうだという気持ちで、交流活動に挑戦しようとしていると考える。

全員の児童が、交流活動に向けてのめあてを記述することができた。つかむ過程の見通しと比較したところ、以下のようなことが分かった。

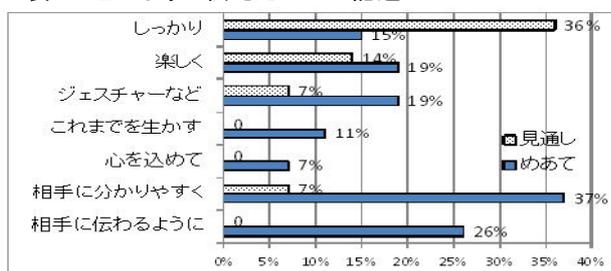
「伝えたいこと」が、「将来の夢」や「自分の夢」であったが、交流活動のめあてでは、「夢への思い」や「夢の魅力」など、より自分とのかかわりを意識した表現になった(表2)。

表2 伝えたいことの記述



さらに、「どのように伝えたいか」については、表3に示すように、「相手に分かりやすく」「相手に伝わるように」など、相手を意識した表現になった(表3)。

表3 どのように伝えたいかの記述



全員の交流活動のめあてに、「伝えたい」だけでなく、交流を意識した「伝え合いたい」「分かり合いたい」や、表4に示すように、「どのように聞きたいか」などの表現が加わった。

表4 どのように聞きたいかの記述

友達から伝えたいことをしっかり聞く	4人
友達の夢のいいところや魅力を見つけるように聞く	4人
友達の伝えたいことがわかるように聞く	4人
友達の夢のことをよく考えながら聞く	2人

これらのことから児童は、伝えたい夢への思いを明確にしながら、伝えたい内容を自分で決めることができたことや、相手の聞きたいことを想定しながら、交流の仕方を自分で決めることができたことが分かる。さらに、相手を認め、励ます『魔法の言葉』を使って、相手の話に言葉を選んで返す、やりとりの楽しさや、お互いを認め合う心地よさを体験することができ、進んでかかわりたいという気持ちや、相手の話を理解しようという気持ちをもてたと考える。

以上のことから、児童は交流活動に向け、自分の思いを反映しためあてをもつことができたと考えられる。したがって、ふくらませる過程での自己決定の場は、思いを伝え合う交流活動に挑戦する気持ちをもつことに有効であったと考える。

3 自ら選択しながら思いを伝え合う交流活動に取り組み、学んだことを振り返る場の有効性について

(1) 交流活動に取り組み、振り返る場

第5時は、これまでの活動を生かし、伝えたい将来の夢への思いを、自ら選択しながら伝え合う交流活動を行った。やりとりの楽しさが味わえるように、1対1で交流する場を設定した。

抽出児童Aは次のような交流活動をした。

《抽出児童Aの交流活動へのめあて》

- ・ 目を見て笑顔で話す。
- ・ 相手の話をよく聞いて、相づちをうつ。
- ・ 魔法の言葉を使う。

友達：What do you want to be ?

抽A：I want to be a patissiere.

～『将来の自分の絵』を見せる～

友達：Good！ Why？

抽A：I like cakes. I like making cakes.

「自分で何かを作ったり、
工夫したりするのが好きだからです」

友達：Wonderful！

「そのためにしていることはありますか」

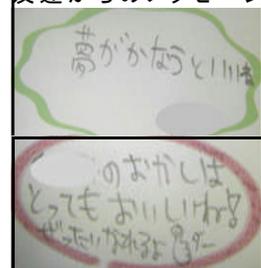
抽A：「ケーキなどを作るのを手伝っています」

友達：Wow！ Cool！

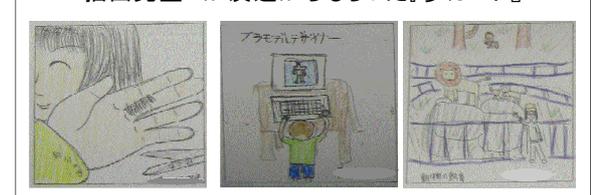
『将来の自分の絵』

抽A：Thank you!

友達からのメッセージ



抽出児童Aが友達からもらった『夢カード』

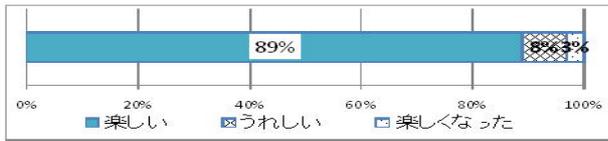


交流活動での抽出児童Aの様子を観察したところ、終始笑顔で、互いに目を合わせ、相手の反応を確かめながらやりとりをしていた。また、会話の合間には“Great.” “Good.” “You can do it.” “Excellent.” など、その場にふさわしい言葉を選んで、必ず返していた。男女交互に、進んで9人の友達と交流していた。

(2) 考察

児童の交流活動後の感想を表5に示す。全員の児童が、楽しさ、嬉しさを実感している。

表5 交流活動後の感想



抽出児童は、次のように感想を書いている。

抽出児童Aの感想

「はやく友達の夢を知りたい」と思っていて、待ち遠しかったです。魔法の言葉を頑張ってたっくさん言おうと思いました。

いよいよ待ちに待った交流の時。やる前は緊張していたけれど、会話は自然にできました。友達が自分の夢に“Wow”と言ってくれたり、自分から魔法の言葉を言ってあげたりして、とても楽しく交流できました。意外な友達の夢を知ることができてよかったです。

将来の夢は変わってしまうかも知れないけれど、目標をもって、それに向かって努力していくのは、よいことだと思いました。

抽出児童Bの感想

交流する前は、みんなの夢をはやく知りたかったし、みんなに自分の夢を知ってもらいたかったです。

交流はとても楽しかったです。たくさんの人と交流したら、いろいろな夢がありました。みんなの夢を聞いて「おもしろそうだな」と思いました。魔法の言葉をたくさん使ったら喜んでくれました。自分もたくさん言ってもらえてうれしかったです。交流活動が終わったら、気持ちがすっきりしました。

相手をほめることは大切だと思いました。みんなにほめられて、自信がもてました。これからも、いろんな人をほめたり、応援したりしていきたいです。

感想には、夢を交流し合う楽しさ、認め、励まし合う楽しさを味わったこと、そして、その体験から学んだことが書かれている。

抽出児童Aは、目標をもつことのよさを実感し、これから夢に向かって前向きに頑張ろうとする気持ちをもっていることが分かる。抽出児童Bは、友達にほめてもらったことが、自分の自信につながったことを実感し、これからも人とかわり、応援したい気持ちをもっていることが分かる。

これらのことから、抽出児童A、抽出児童Bは、交流活動を体験し、振り返ることで、楽しさや達成感を味わったと考える。

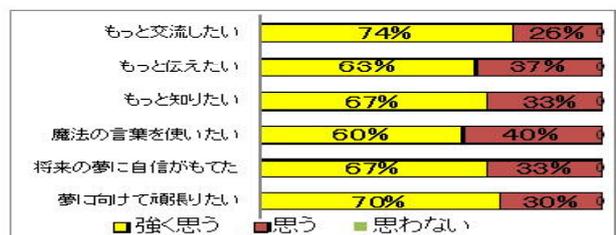
事前アンケートで交流に「不安」をもっていた児童（10人）は、次の学びをしている（図11）。



図11 不安をもっていた児童の交流活動の振り返り

交流活動の様子から、自分なりのこだわりやめあてをもって交流しようとしていること、励ます言葉の大切さ、友達の夢や、友達の取組のよさに気付きながら交流活動を楽しんでいることが分かる。また、児童の学びから、交流の楽しさやよさを実感し、交流への意欲をもっていること、また、夢をもつ大切さを実感し、夢を追い求める姿勢をもっていることが分かる。さらに実施したアンケート調査から、交流活動を通して、全員の児童が交流したい気持ちや、夢に向けて頑張りたい気持ちをもったことが分かる（表6）。

表6 将来の夢を伝え合って思ったこと



以上のことから、これまでの活動を生かし、自ら選択しながら思いを伝え合い、交流活動から学んだことを振り返ることで、一人一人の児童が交流する楽しさや達成感を味わい、コミュニケーションへの意欲がはぐくまれたと考える。したがって、広げる過程で、思いを伝え合い、学んだことを振り返ることは、コミュニケーションへの意欲をはぐくむことに有効であったと考える。

本研究では、小学校英語活動において、一人一人の思いを生かす自己決定の場を取り入れた単元としての授業づくりを行い、コミュニケーションへの意欲をはぐくむことを目指してきた。この実践を通して目指す児童の姿である「進んで楽しく交流しようとしている」「伝えたいことを伝えようとしている」「友達の話を聞いて理解しようとしている」について、どのように変化したかを自己評価カードから振り返ったところ、表7、表8、表9のようになった。

表7 進んで楽しく交流できた

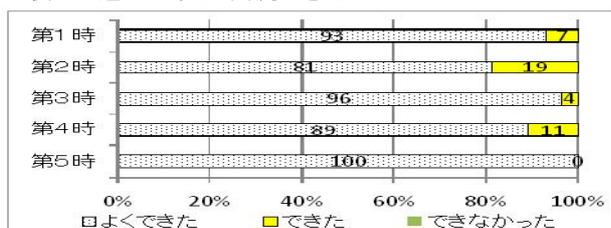


表8 伝えたいことを一生懸命に伝えることができた

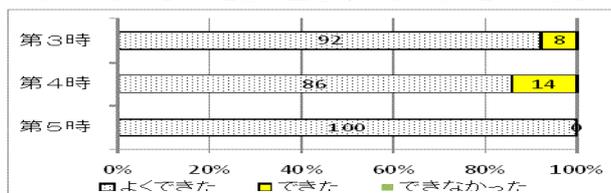
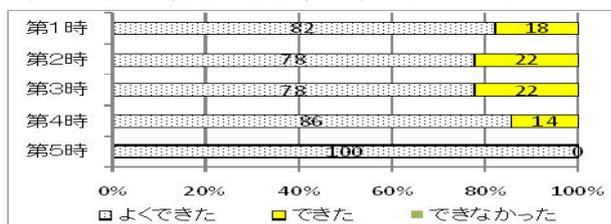


表9 相手の話を一生懸命に聞くことができた



すべての児童が、三つの項目について「よくできた」「できた」と答えている。さらに、第5時ではすべての児童が「よくできた」と答えている。

このように、目指す児童の姿からもコミュニケーションへの意欲が高まったと考える。

VI 成果と課題

1 成果

一人一人の思いを生かした自己決定の場を積み上げていくことで明らかになった成果

- 伝えたいことに自分なりの価値を見だし、児童一人一人が伝えたい思いを膨らませることができた。また、そのことで、相手に聞きたいことをもてたり、相手から聞かれたことに自信をもって答えられるようになったりした。

- めあてをもち、進んで思いを伝え合う交流活動に取り組めた。児童は、やりとりの流れの中で、決めてあったことだけでなく、これまでの活動を生かして言葉やジェスチャーなどを選択しながら交流活動に取り組み、振り返ることでより一層の楽しさや達成感を味わい、コミュニケーションへの意欲をはぐくむことができた。
- 認め、励ます言葉を児童が選んでやりとりできたことで、相手に喜んでもらった、相手の役にたてたという自己効力感や、相手に認められた、分かってもらえたという受容感をもつことができた。また、児童が安心して交流できる環境づくりにもなった。そして、やりとりがつながる、豊かな交流活動に取り組むことができた。

2 課題

今後、コミュニケーションへの意欲をはぐくむために、次のことを踏まえ、英語活動を展開していく必要がある。

- 意欲的なコミュニケーション活動を行うためには、学年・学級経営を基盤として、全教科に渡ってコミュニケーション活動を充実していく必要がある。その際、聞く、話す、交流する言語活動の充実とかかわらせる。
- 自らの思いを膨らませながら、交流活動に挑戦し、楽しさや達成感を味わう体験の積み重ねが重要である。このような、交流活動に挑戦できる単元を、場面設定を工夫したり、児童の実態や興味・関心を踏まえた題材を新たに開発したりして、構想していく。
- 限られた時間の英語活動の中で、児童の思いを生かすためには、英語活動の時間だけでなく、他教科や行事等に関連させ、そこでの学びを積極的に生かしていく。

<参考文献>

- ・ J AMネットワーク著 『自分表現力エクササイズ』 アルク(2005)
- ・ NHKラジオ第1「きらり10代!」制作班編 『あこがれ仕事百科』 実業之日本社(2006)
- ・ 板東眞理子監修 『将来の夢さがし! 職業ガイド234種』 集英社(2001)
- ・ 鹿毛雅治著 『子どもの姿に学ぶ教師』 教育出版(2007)
- ・ 桜井茂男著 『学習意欲の心理学』 誠信書房(1997)